

[認知症対応型共同生活介護用]

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホーム ふるさとの家「すずらん」
訪問調査日	平成 21 年 3 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホーム ふるさとの家「すずらん」
所在地	薩摩川内市勝目町5215-5 (電 話) 0996-27-6060
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年3月22日

【情報提供票より】(21年 1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~50,000円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	87.7 歳	最低 64 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高内科クリニック、こすも歯科、こざくら整形外科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な市街地に位置し、関連病院や小規模多機能ホームなどと併設したホームである。ホーム内は広く、すべての部屋にトイレがあり利用者のプライバシーへの配慮が感じられる。運営推進会議では行事についての詳しい情報提供と、ヒヤリハット事例を含めた情報交換を行い、地域との連携や透明性の確保に努めている。また、医療連携体制をとり、希望があれば看取りケアを実践しているため利用者や家族にとって大きな安心感がある。話し合いを重視しながらの課題解決は職員の自信になり、毎月2回のミーティングは運営者や管理者と職員間の情報交換を密にしている。重度の利用者もできるだけ楽しみが見つけられるように外出頻度の目標を設定したり、最期まで馴染みの環境で暮らしたいという利用者の希望を、なんとかかなえられるように頑張っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングでも漏れがないように繰り返し管理者が伝達し、改善方法を話し合っている。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員が行い、各ユニットでミーティングの時に話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族・地域住民代表、市職員などの参加がある。議事録より、事業所行事等の報告のみではなく、ヒヤリハット事例紹介を改善策まで丁寧に説明し、透明性を図っている。出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、苦情相談窓口については玄関に掲示するとともに、利用開始時には書類を見ながら家族に説明している。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。しかし、家族が苦情を言いにくいことが推測できるため、他のグループホームとの交流の時に家族の不満や要望について情報交換を行い気がつかない部分を補うように努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校や保育園との交流があり、自治会へ加入し、地域のボランティアの訪問も多い。地域との交流に力を入れた結果、今では地域の方が待っていてくださるようになった。介護施設についての相談や問い合わせなどにも気軽に応対し、立ち寄りやすいホームを心がけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に地域密着型サービスとしての役割が意識できる内容が盛り込まれ、さらにグループホームの各ユニットで職員が話し合い、より分かりやすい言葉で作り上げた理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和や日々の業務の中で理念を意識して介護に取り組んでいる。また、作成された理念は職員や来所者の目につくように事務所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や保育園との交流があり、自治会へ加入し、地域のボランティアの訪問も多く地域との交流に力を入れた結果、今では地域の方が待っていてくださるようになった。介護施設についての相談や問い合わせなどにも気軽に応対し、立ち寄りやすいホームを心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングでも伝達漏れがないように繰り返し管理者が伝達し、改善方法を話し合っている。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。今回の自己評価は全職員が行い、各ユニットでミーティングの時に話し合っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民代表、市職員などの参加がある。議事録より、事業所行事等の報告のみではなく、ヒヤリハット事例紹介を改善策まで丁寧に説明し、透明性を図っている。出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市担当窓口へは電話で済ますことなくできるだけ出向き、相談や情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理状況を郵送するとともに、2ヶ月ごとにホーム便りを家族に配り、利用者の日頃の様子やその他のお知らせを報告している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口については玄関に掲示するとともに、利用開始時には書類を見ながら家族に説明している。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。しかし、家族が苦情を言いにくいことが推測できるため、他のグループホームとの交流の時に家族の不満や要望について情報交換を行い、気がつかない部分を補うように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、多数の異動がないように配慮している。やむを得ず異動になる時には、機会を設けて自己紹介を行い、しばらくは繰り返すようにしている。また、ホーム便りにも掲載し、紹介の漏れがないようにしている。さらに、利用者がホームのことを新任の職員に教えることはコミュニケーションの一つになっている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については職員に紹介し、主だった研修は受講費負担などの配慮を行っている。法人内やグループホームでの研修計画は前期と後期に分け、不定期だが大まかな計画を立てている。新採用の職員に対してはマニュアルを作成し、職員から声かけを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、交流会へ参加する他、日常的に他のホームの職員・利用者と交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅で生活していた方は管理者が出向いて自宅の様子を確認したり、顔馴染みの関係を作っている。また、施設からの入居の方は担当者からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。入居後もホームの雰囲気徐々になじめるように家族の協力を求めながら頻りに声をかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に活動する中で無駄をなくす工夫などを教わったり、昔のことを聞いたり、行事を楽しんだりする機会を多く設けている。また、「あなたたちも頑張っているね。」などと気遣いの言葉を掛けてもらいながら協力して暮らしている。訪問時も一緒に調理や談笑する風景が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。意向や希望はなるべく時間をかけて情報収集し、把握するように努めている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえ介護支援専門員と職員が話し合い介護計画を作成している。職員も計画を意識しながら日常の介護が行えるように努力し、ケアの記録も利用者の言葉や事実をそのまま書き留めることで、より本人の気持ちに沿った介護ができるように努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について毎月2回のミーティングで確認し、3か月ごとのモニタリング(評価)が行われて、変化の兆しがないか確認し、まとめられている。利用者の状況に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、ミーティングを開いて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や家族の宿泊、利用者の入院中の面会や早期退院に向けての支援など臨機応変に対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしている。定期的な受診、通院介助が行われ、利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に的確に伝わるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期についての指針(入居者が重度化した場合等における対応の指針)が作成され、入居時に説明し同意が得られている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員間の共有も図っている。現在まで看護師の協力を得て数名の看取りを行っている。ホーム内にはすぐ対応できるように、酸素吸入、吸引器他医療器具が常備されている。さらに、看取り後の振り返りにより、心理的なケアを含めた研修を行い職員の自信や成長につながっている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングを利用し職員の意識の向上を図っている。プライバシーに対する感覚は個人によっても差があるため、職員で話し合い共有するようにしている。また、記録は概ね外来者の目に触れないように事務室に保管し、当日の記録など限られたものだけが食堂に置いてあり配慮が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節が感じられる食材を使うなど食への興味を持ってもらい、調理を一緒にしたり、料理の過程を感じながら食事を楽しむことができるような支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能でユニットによって大小の浴槽があり、家庭的な小さな浴槽に入ったり、仲の良い利用者同士で大きな浴槽での入浴も楽しめる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し気持ちよく清潔を保つようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯、創作、裁縫、畑仕事など一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞きながら、ホーム敷地内での外気浴は頻繁に行っている。買い物、ドライブなどは週2回程度は出かけられるように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、屋間は鍵をかけることはなく自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火訓練を年間1回ずつ行っている。緊急時のマニュアルを作成し、自治会にも協力を呼び掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個人別の記録に毎日、全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握され、より快適な生活が送れるようにケアに活かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間にはベンチやソファが置かれ花が飾られている。玄関脇の椅子や和室にもくつろげるスペースが確保されている。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理の様子も感じられ五感を刺激している。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷蔵庫やテレビなど個人のものが持ち込まれ居心地のよい空間となっており、全室トイレ完備で、排泄に気を使わずに暮らせる環境である。部屋には写真やお便りなどが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		